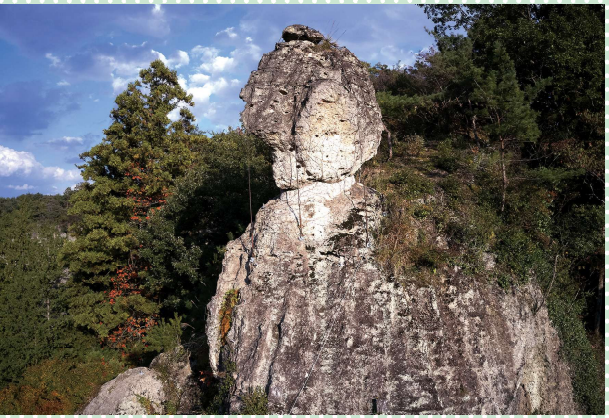


↑❶大谷地域にある奇岩

わかるかな？

大谷地域には、
奇岩と呼ばれる不思議な形の岩が多く
見られ、観光の名所となっています。

左の写真にある岩は、
その形から何という名前が
ついているでしょうか？

① 鬼の投げ石
② 天狗の投げ石
③ 神の投げ石
④ 天使の投げ石

答えは、どこかに
書いてあるよ。
探してみてね。

1 大谷石文化が息づくまち　宇都宮Ⅰ……大谷石をほる文化

ことば

❶日本遺産
各地に残る有形・無形の文化財を１つのストーリーで結び、地域の活性化に役立てる取り組みを、文化庁が認定・支援する制度のことです。

日本遺産 JAPAN HERITAGE ←❶日本遺産のロゴマーク

❷大谷石
宇都宮の大谷地域に広がる凝灰岩のうち、石材として採掘されるものの総称です。軽くてやわらかく、加工がしやすいことで知られています。 ➡p.68

↑❷加工された大谷石

❸産業観光
歴史的・文化的に価値ある産業文化財や生産現場などに触れることを目的とした観光のことです。 ➡p.67

▶日本遺産❶に認定された大谷石文化とは？

大谷石❷は、石材として全国的に有名でしたが、2018（平成30）年に宇都宮市の歴史文化を代表する大谷石文化のストーリーが日本遺産に認定されたことで、大谷石とそれらにまつわる文化の魅力が世界に発信されるようになりました。

宇都宮市の大谷地域では、江戸時代以降、長年の採掘により掘り残された石切場と自然のまま残る奇岩群との、人工と自然が織りなす固有の景観が観光の名所となっていました。

それらに加えて、近年では、新たに大谷地域の自然を生かした産業観光❸が企画されたり、元々あった大谷石でできた建物をリノベーション（改装）したレストランやカフェなどができたりするなど、新しい観光の魅力が増しています。

大谷地域には、どんな魅力的なものがあるのか、調べてみましょう。

小学校の遠足で大谷資料館に行ったことがあるけど、迫力があったな。

大谷石は理科で学習した凝灰岩の仲間なんだって。
大谷石についてもう少し知りたいな。 ➡p.68

まずは、大谷地域に関する
動画を見てみよう。

OYA STONE CITY ▶

学習問題　大谷石文化の中心である大谷地域には、どんな魅力があるのだろうか。

▶自然と人工の形象が織りなす景観の魅力

江戸時代より景勝地として知られた大谷地域は、紀行文に記され、近代以降は絵画や観光絵葉書のモチーフになりました。その魅力は、奇岩と呼ばれる不思議な形の岩❸と、採掘の跡が織りなす独特の景観です。奇岩群のうち、御止山と越路岩は、自然の造形としても、歴史的な文化財としても価値が高いことから、国の名勝指定を受けています。

1 奇岩群❸

奇岩群の中には、人類の登場以前から、長い年月の間に自然によって生み出されたものや、近世以降の採掘の跡が植物に埋もれ、再び周囲の自然と溶け合ったものがあります。

2 大谷景観公園

大谷石の岩壁が連なる景観❹を一望できる公園です。姿川に沿った奇岩群の南端に位置し、川のせせらぎ、四季折々の自然、御止山の見事な岩と、採掘の跡を眺めることができます。

3 越路岩❺

姿川に沿った奇岩群の北端に位置し、田植えの季節には、周囲の田んぼに水が張られ、あたかも奇岩が水面にそびえ立っているかのように見えます。なお、大谷地域の奇岩群は、しばしば「陸の松島」「関東の耶馬渓」と称されますが、松島（宮城県）や耶馬渓（大分県）との大きな違いは、自然と人工が創り出した岩壁が共存するところにあります。

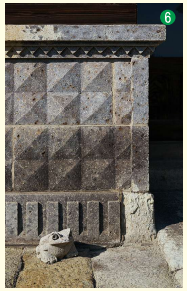
↑❸奇岩と呼ばれる岩々（奇岩群）

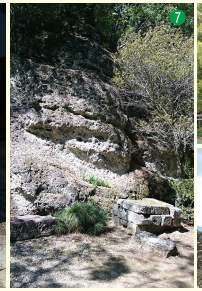
↑❹大谷景観公園から望む大谷石の岩壁（御止山）

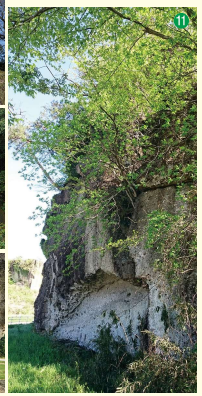
↑❺越路岩

宇都宮に見られる人工と自然の織りなす風景

宇都宮のいろいろな場所に、大谷石でできたものがあります。自然の中に溶けこんでいて、宇都宮に住む人々には見慣れた風景ですが、他の地域の人々にはめずらしい風景に見えるようです。

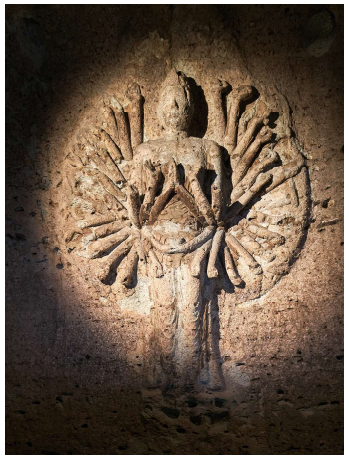






❻無事カエル
❼大谷寺周辺
❽ポケットパーク周辺
❾大山阿夫利神社
❿ダルマ岩
⓫大谷地域の姿川周辺

↑❶大谷寺



↑❷大谷寺本尊千手観音立像(大谷観音)

ことば

❶磨崖仏

自然の岩壁などに彫られた石仏のこと。

↑❸高さ27mの平和観音

宇都宮の人々の願いと大谷石の彫刻

大谷石とともに暮らしてきた宇都宮の人々は、世の中の平和と幸せを願う気持ちを、この石に刻んできました。それは、現代にも引き継がれ、大谷地域の重要な文化遺産・観光資源として残されています。

1 大谷寺

大谷寺[1]は、平安時代に開かれた寺であると伝えられています。本堂は自然に侵食された洞窟に包み込まれるように建っており、自然と人工物が不思議な調和を保った景観になっています。

2 大谷観音と石仏群（大谷寺）

奈良時代から平安時代にかけて洞窟の壁面に10体の仏像が彫られていました。その中の一つが大谷寺本尊の千手観音立像[2]です。造られた当時は、金箔が貼られ黄金に輝いていました。

千手観音は、人々を救うため、千の目と手を持つと言われ、古くから「大谷観音」と称し信仰を集め、鎌倉時代には坂東三十三観音霊場の一つとなり、今日まで多くの参拝客が訪れています。

このほかに、洞窟の壁面には「釈迦三尊像」「薬師三尊像」「阿弥陀三尊像」の磨崖仏[1]が彫られており、これらの仏像は国の重要文化財と特別史跡の二重指定を受けています。

3 平和観音

自然の岸壁に彫られた27mの大きな観音様[3]です。第二次世界大戦の戦没者の慰霊と世界平和を祈念して、1948（昭和23）年より6年余の歳月をかけ、全て手彫りで造られました。

展望台からは大谷の町が一望できます。

親子がえる

昔、弘法大師がこの地方を訪れたとき、たくさんの蜂がまちをおそって、住民たちを苦しめていました。そこで、弘法大師は住民を助けるために観音様を作り上げました。するとどこからともなく「親子がえる」が現れ、蜂の大群をおいはらってくれました。それ以来、まちの人は「かえる」に感謝し、今も地守神様として言い伝えています。

親子がえるは、置物として用いられるなど、宇都宮の家庭では見慣れた風景の一つとなっています。また、おみやげとしても売られています。

※諸説あります。

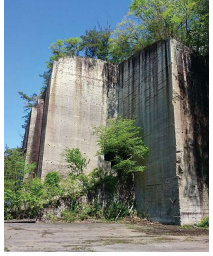
↑❹大谷公園にある親子がえる

大谷石の採掘が魅せる景観

大谷地域は採掘産業が盛んであり、自然の奇岩群と採石の跡が生み出した人工的な風景[5]が見られます。同じ岩でも、見る方向によって印象がまるで違うなど、自然と人工の形象が織りなす不思議で独特の景観がこの地域の特徴です。

2024（令和6）年10月11日「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定されました。

➡p.73

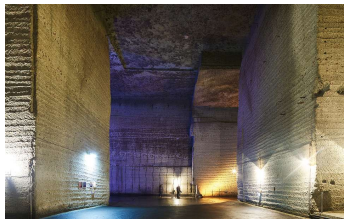


→↓❺石切りが生み出す風景

1 大谷資料館（採石場跡地）

石切りが最も盛んだったころ、大谷地域には約250か所の採石場が存在しました。その多くは地下に設けられ、地下100mの場所もありました。このような採石場の跡には、質の良い石を求めて天井と柱を残しながら掘り下げられた結果、岩盤の天井、壁、柱などが残された巨大な空間が残されました。天井高はおよそ30mで、壁面には石切りの跡が残ります。第二次世界大戦中には、陸軍の地下倉庫や、中島飛行機の軍需工場(➡p.49)としても利用されました。

その一つのカネイリヤマ採石場の一部は、現在、大谷資料館[6]として公開されています。約2万m²の地下石切場の跡は、最深部で地下60mあり、年間平均気温は約8℃で、真夏でも10℃ほどです。演劇やコンサートの会場のほか、映画やテレビドラマなどの撮影にも使われます。



↑❻大谷資料館内部

動画を見てみよう！

「地下迷宮を探る」▶

↑❼カネホン採石場

2 カネホン採石場[7]

現在稼働中の地表に露出している採石場で、採石場に隣接して石材加工所や事務所があり、採石の作業風景を見学[8]するツアーが開催されるなどの産業観光が実施されています。大谷石採石場の大きさを体感できるとともに、ガイドから話を聞くことで、大谷石採掘の歴史が分かると人気が高まっています。

産業観光は、体験型の観光として、宇都宮の魅力的なものの一つとなる可能性があるよ。

今後の大谷地域はどのように発展していくのかな？ ➡p.72

↑❽見学の様子

まとめる ひろげる

大谷地域の魅力は、大谷石が織りなす景観や彫刻にあると言えます。宇都宮の人々は長い時の流れの中で、大谷石という地域の宝に祈りや願いを「彫り」、そして石材として「掘って」きました。大谷石の歴史・文化は、現在にも息づいています。こうした大谷石文化の意義と魅力を再発見し、世界に発信できるようにしていきましょう。

大谷石とは、どんな石？

1 大谷石とは？

大谷石[1][3]は、宇都宮市の大谷地域に産する石材の総称です。地質学的には、凝灰岩に分類されます。ちなみに、凝灰岩とは、火山から噴出した溶岩以外の物質が、水中や地表に降り積もり、長い時間をかけて圧し固まった岩石のことです。

←❶大谷石

凝灰岩は、中１の理科で学習したよ！おぼえているかな？

2 大谷石は、どうやってできたの？

日本列島の原型は、ユーラシア大陸の一部が割れ、地殻変動によって形成されました。今からおよそ1500万年前には、現在の中部よりも西が陸地で、東北地方にあたる部分は海が広がり、多くの海底火山が爆発します。その噴出物である大量の軽石流、その後に起こった大地の隆起で、陸地となってからも続いた火山活動による軽石流は、数百万年という長い年月の間に圧し固まり、岩石となりました。これが、北海道・東北・中部・北陸地方の日本海側、甲信越地方から伊豆半島にかけて、そして栃木県を含む北関東の内陸部にも見られる「グリーン・タフ（緑色凝灰岩）」です。[2]

宇都宮付近には、このようにしてできた凝灰岩の層（大谷層）が存在します。大谷石を産出する大谷層は、地下の深いところまで多くの層が重なり、分布も広く、深さや場所によって性質の異なる石が採れるという特徴があります。大谷層では、徳次郎石[4]や長岡石[5]などと呼ばれる、大谷石に似た様々な石材の採掘が行われていました。

↑❷日本のグリーンタフ地域

↑❸大谷石

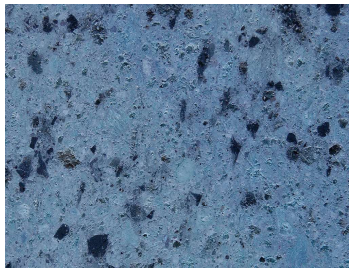
↑❹徳次郎石

↑❺長岡石

同じ大谷層から採れた凝灰岩でも、比べてみると表面の様子など、違う所があるんだね。

3 大谷石には、どんな特徴があるの？

凝灰岩は、軽くてやわらかく、多くの孔や細かい粒、不規則な斑点などが見られ、ざらざらして粉っぽい、という共通性があります。大谷石については、「ミソ」と呼ばれる黒や茶色っぽい斑点が最大の特徴で、火山の噴出物が降り積もり、圧し固まった際に、周囲の物質を巻きこみ、それが変質して生じたのではないか、という説が有力です。また、火に強いほか、年月がたつと変化する性質を示し、掘ったばかりは青白く[6]、やがて灰色となります。あたたかみと素朴な味わいがあり、土や木に近い風合いの日本的な石です。



↑❻採掘されたばかりの大谷石は青白い

動画を見てみよう！

「大谷石採掘の歴史」▶

大谷石は、どうやって採掘・加工するの？

1 採掘の方法と道具

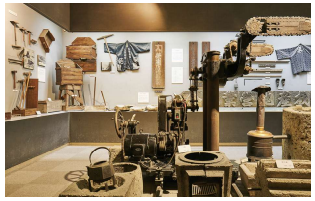
採掘には、三つの方法があります。江戸時代から行われてきたのが、地表に露出した石の層を掘る「露天平場掘り」[7]です。明治末期から大正初期になると、石の層に沿って四角い横穴を掘り進む「垣根掘り」[8]がもたらされました。戦前には、垣根掘りで水平に石山に入り、平場掘りで垂直に掘る「坑内掘り」[10]が採用され、深い地下の広い空間で採掘されるようになります。道具は、つるはしが長らく使われ（手掘り）、チェーンソーの導入は、平場掘りで1959（昭和34）年、垣根掘りでは1965年になってからです（機械掘り）。ただし、チェーンソーで石の層を切ったあとは、現在も手作業により、ハンマーで切り込みに「矢」を打ち込み、石材を１本ずつ切り出します。

↑❼露天平場掘りの様子

↑❽垣根掘りの様子

2 加工の方法と道具[9]

一般的に大谷石は、定型の石材として切り出します。1955年に導入された裁断機は、採掘後の単純な加工を容易にしました。現在は、コンピュータ制御のダイヤモンド・カッターにより、さまざまな大きさ・形状の石材を大量に切り、同時に磨くことができます。しかし、伝統的な仕上げ、細かな細工には、昔ながらののみとハンマーなどが用いられています。



↑❾大谷石を加工するための機械や道具

❾の写真の真ん中にある機械は、大谷で開発され、全国で使われるようになったんだって。

先人の知恵と工夫

大谷石を効率よく安全に掘る工夫

「垣根掘り」と「坑内掘り」は、先人たちの知恵や工夫のたまものです。

伊豆の石工さんから伝わった「垣根掘り」は、不要な石の層は手をつけずに残し、必要とされる石の層だけを、その傾きに沿って水平に掘り進むため、効率がよく天候にも左右されません。

一方、水平・垂直に掘る「坑内掘り」は、深くて広い縦穴をいくつも掘る方法ですが、無計画に行うと陥没や落盤につながるおそれがあるので、それを防ぐために「柱として残す部分を設ける」工夫がなされました。1972年には、国が「採石法」としての基準を定め、「太い柱が一定の間隔で整然と並ぶ」坑内が整備されます。その結果、「地下神殿」を思わせる独特な空間が生まれたのです。

↑❿坑内掘りの様子

コラム

日本遺産に認定された「大谷石文化」のストーリー

地下迷宮の秘密を探る旅　～大谷石文化が息づくまち宇都宮～

冷気が張りつめるこの空間は一体、どこまで続き、降りていくのでしょうか。壁がせり立つ巨大な空間には、柱が整然と並び、灯された明かりと柱の影が幾重にも続きます。柱と柱の間を曲がると、同じ光景がまた目前に広がり、次第に方向感覚が失われていきます。

江戸時代に始まった大谷石採掘は、最盛期に年間89万トンを出荷する日本屈指の採石産業として発展し、地下に巨大な迷宮を産み出していきました。

大谷石の産地・宇都宮では、石を「ほる」文化、掘り出された石を変幻自在に使いこなす文化が連綿と受け継がれ、この地を訪れる人々を魅了しています。

↑⓫地下迷宮をイメージさせる地下採石場跡

↑⓬教会の柱にも大谷石を使用

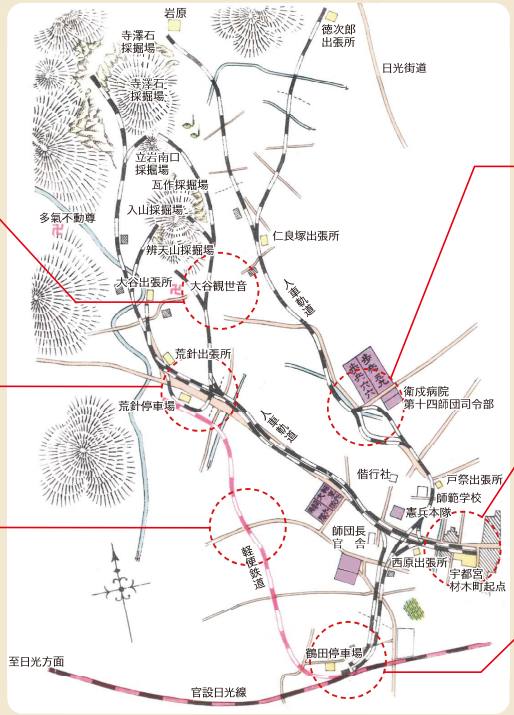
大谷石の輸送

❶大谷石を運搬するための人車軌道と軽便鉄道

▲現在の瓦作公民館付近

▲現在の城山地区
市民センター付近

▲現在の明保通りと
新鹿沼街道の交差点



▲宝木若草歩道橋付近

▲現在の宇都宮地方
裁判所付近

▲現在の鶴田駅周辺

上の地図は、大谷石を運搬するための人車軌道と軽便鉄道の記された地図(❶『宇都宮石材軌道株式會社線路一覧圖』より作成)です。1896(明治29)年に、宇都宮軌道運輸株式会社が設立され、人車軌道が建設されました。人車軌道が採掘場から宇都宮の中心部(現在の裁判所前)や鶴田駅までのびており、現在の大谷街道、大通りや新里街道に人車軌道❸の線路があったことが分かります。

また、1913(大正2)年になると、荒針停車場(現在の城山地区市民センター)から鶴田停車場まで、大谷石を大量に運ぶための、軽便鉄道が整備されました。これにより、蒸気機関車❷で大量の大谷石を運搬することが可能となりました。1931(昭和6)年になると、宇都宮石材軌道株式会社は、東武鉄道株式会社と合併し、軽便鉄道は東武鉄道大谷軽便線となり、西川田駅まで路線は伸びていきました。

↑❷軽便鉄道の蒸気機関車(大谷石材協同組合蔵)

→❸人車軌道貨車
(大谷石材協同組合蔵)

動画を見てみよう!

◀軌道再現『荒針駅』『天狗の投石』『スルス岩』『瓦作公園』

大谷地域マップ

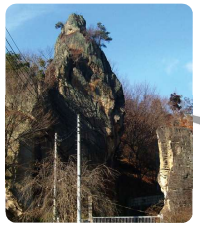
▲大谷エリアマップ

❶ポケットパーク

❷奇岩　ラクダ岩

▼兜岩　▼亀岩

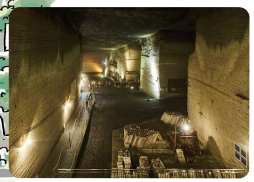
❸奇岩　兜岩


❹奇岩　鶴岩

❼大谷景観公園と御止山

❽大山阿夫利神社

❺奇岩　亀岩(弁慶の太刀割岩)


❻大谷資料館

❾センニン洞

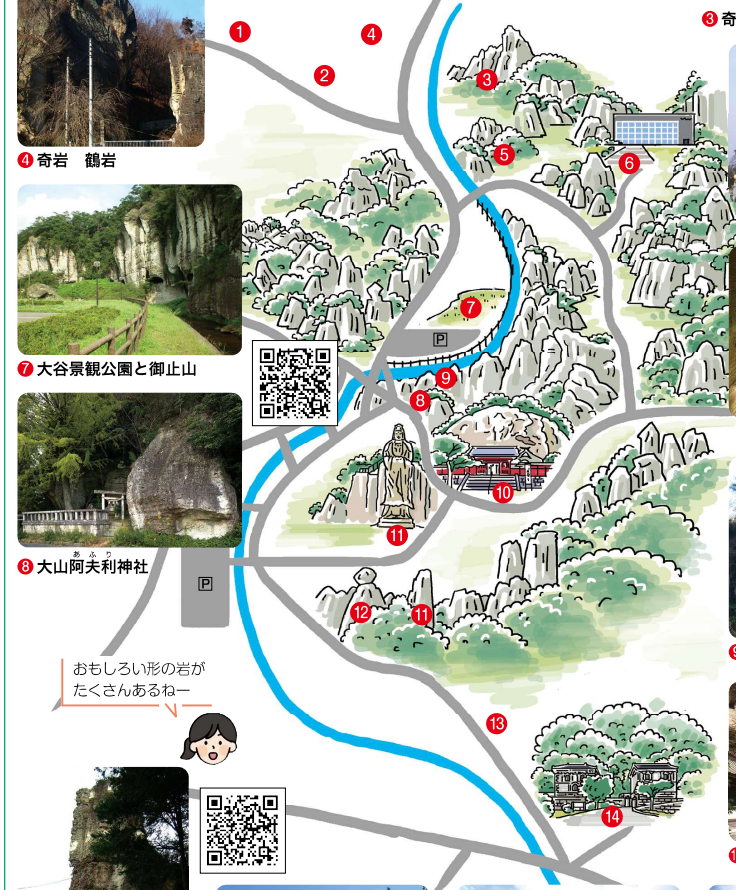
❿大谷寺

⓫スルス岩と平和観音

⓬天狗の投げ石

⓭大久保石材店

⓮屏風岩石材　石蔵



これからの大谷地域の発展はどうなっていくのかな？

人物紹介　大谷地域で、お店を経営することとは？

髙橋智也 さん

プロフィール
Green・earth株式会社代表取締役。
大谷地域にあるカフェ、雑貨屋、花屋の運営や宇都宮市内で建設会社を経営している。

私は、お店を経営するということは地域と一緒にまちをつくるということだと考えているので、私が行っていることは、お店の経営ではなく大谷地域のまちづくりだと思っています。大谷地域は、自然や歴史に富み、観光分野においてポテンシャルの高い地域です。しかしながら、観光客の滞在時間が短いことや、若い人たちへの情報が届きづらいことが問題であると感じました。そこで、私はどちらの問題も解消することができるよう、子どもから大人まで幅広い層が楽しめるまちづくりに取り組みました。

まず、地域の情報を発信する物産店を作りました。そしてその後ゆっくりと食事ができるベーカリーを開店後、次に２店舗の中間にあたる位置にお花屋さんを併設したカフェを開店しました。そこには、お客様にまちあるきを楽しんでもらいたいという意図があり、お客様が大谷地域を歩くことでゆっくりとした時間を過ごし、大谷の自然風景の良さを味わうことができると考えています。また、お客様の回遊性が生まれれば、地域全体の商売の活性化につながるはずです。自分達のお店だけではまちづくりはできません。地域の人達を尊重し、まちの人たちと共存共栄することが大切だと考えています。一人で出来ることは限られています。みんなで協力することが一番大切なことですね。

まだまだ大谷地域は発展します。100年先まで発展し続けることがまちづくりの成功と考えていますので、皆さんの中から、私たちの考えに賛同し、まちづくりを引き継ぐ人材が出てくることを期待しています。

人物紹介　大谷石ってこれからどうなっていくの？

髙橋　卓 さん

プロフィール
大谷石材協同組合理事長。有限会社KANEHONで代表取締役を務め、大谷石の採掘・販売・観光等を行っている。

大谷石は、他の石と比べて温かみがあり、木材や他の石材など、何にでも合わせることができるという特徴をもっています。だからこそ、その活用方法は無限です。現在では、さまざまな種類の近代建築に併せた大谷石の施工方法が開発され、たくさんの建築物に活用されているので、大谷石関係の産業は、ますます発展していくと思います。

大谷石を活用するための挑戦は、建築分野だけにとどまりません。大谷石のもつ成分に着目して、大谷石の粉を肥料にまぜて土壌改良剤として使用したり、大谷石の粉をポリ袋やシートに練りこむことで、食品や花の鮮度を保つことができる商品を開発したりするなど、化学分野でも挑戦をしてくれています。大谷石は捨てる所がない石です。大谷石を研究し、何に利用できるかを考えて、製品の開発をし続けることが大切だと思っています。

大谷石材協同組合▶

また、大谷石の販売では、海外への販売についても挑戦しています。海外では、建物に硬い石が使用されることが多く、大谷石のような柔らかい凝灰岩は、建物にはあまり利用されていません。だからこそ、チャンスがあります。大谷石の良さを分かってもらえれば、必ず使ってもらえるはずです。そこで、海外に向けて、大谷石をアピールする活動を行うとともに、現地ユーザーの建物の特徴を分析し、お客様のニーズにあった大谷石を出荷することができるよう、日々研究をしています。

大谷地域の発展には、産業と観光の両輪が必要です。私たち、大谷石材協同組合は、大谷石の産業の発展のために、全力を尽くしています。

コラム

↑❶グリーンスローモビリティ

LET'S ENJOY OYA
―大谷をもっと楽しむ　グリーンスローモビリティ―ONE DAY PASSPORT

宇都宮市では、観光拠点である大谷地域において、目標とする観光入込客数120万人の達成に向けて、来訪者がストレスなく、楽しく地域内を周遊できる環境の構築を目指しています。

そのための取り組みの一つが、グリーンスローモビリティ❶です。グリーンスローモビリティとは、低速・電動で走る環境にやさしい乗り物で、安全・安心にかつ楽しみながら移動することが可能です。大谷地域では、週末にグリーンスローモビリティの乗車券と大谷地域の観光施設や飲食店、お土産店をお得に楽しめる「ONE DAY PASSPORT（ワンデイパスポート）」を販売しています。観光施設や奇岩群など、大谷地域ならではの壮大な景観をガイド付きで周遊することが可能です。

コラム

新しい農業に挑戦！
大谷夏いちごの栽培❷

「大谷夏いちご」は、夏の出荷量が少ないことに着目し、生産を始めた「なつおとめ」という品種のうち、宇都宮の大谷地域で栽培されたいちごのことを言います。栽培には、大谷石採掘場跡地の冷たい地下水などを地上に引き上げ、いちごの株元（くきの根元）を冷やす「クラウン冷却」という方法を用いるなど、自然の恵みを巧みに利用した農業に挑戦しています。

夏場でも安定して生産することができ、品質も良い「大谷夏いちご」は、市内だけでなく、全国各地のホテル、レストラン、洋菓子店などでも使用されています。

❷

コラム

<県内初>「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定されました。
（令和６年10月）

「文化的景観」とは

文化的景観とは文化財の一つで、「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」とされています。

日本の多様な気候風土の中で、人々は、地域の自然と関わりながら生業を立て、生活を営み、長い年月をかけてその土地ならではの特徴的な景観を築きあげてきました。こうした景観を受けつぐ土地を「文化的景観」としています。

その中でも、地域の特色を示す代表的なものや、他に例を見ない独特なものとして国が選定したものが「重要文化的景観」です。

「大谷の奇岩群と採石産業の文化的景観」とは

大谷石を中心に形成された自然と石を掘る人々の営みが共生する景観です。

大谷の奇岩群、カネホン採石場等の採石場、軌道跡、大谷寺等の寺社仏閣、旧大谷公会堂等の大谷石建造物など28個所が、本景観の本質的な価値を顕著に示す重要な構成要素となります。

「奇岩群　越路岩」と奇岩群を形成する要素となった「姿川」、大谷石を掘り出してできた巨大な地下空間と採石する人の様子をデザイン

令和７年９月にエンブレムのデザイン投票を行い、約１万票の総投票数のうち、約3,500票を獲得したデザインに決定しました。投票者の９割が10代以下であり、児童・生徒の皆さんのご協力で決定しました。

エンブレム